

令和4年12月2日

令和4年度 大阪府立羽曳野支援学校 第2回 学校運営協議会

進行 井川教頭

記録 森本教頭

日時 令和4年12月2日(金) 15時30分～17時

場所 大阪府立羽曳野支援学校 図書室

参加者 亀田委員 平賀委員 前田委員

大門校長 井川教頭 森本教頭 川野事務長 多田首席 和田首席 岡田首席

大林教諭 小川教諭

1 校長挨拶

本日は、ご多用の中ありがとうございます。令和4年10月に文部科学省より「特別支援教育の充実について」という題で発表があり、その中で支援教育を必要とする児童生徒数の概況や国際比較など様々な観点から述べられていました。そういった支援教育のニーズが更に高まっていることから、本校でも病弱支援教育の専門性を高めていこうと思った次第です。本日は教育実践などを紹介させていただきますので、ご指導よろしく願いいたします。

2 協議

羽曳野支援学校の ICT 教育について

・デジタル教科書（小川教諭）

デジタル教科書は、大学と連携して無償で配付している。対象は、支援学校に通う教科指導を受けている児童生徒や弱視等の児童生徒である。

デジタル教科書は文字を読み上げるリフロー機能や書き込むことができるUDブラウザもあり、学習するにあたって大きな支援になっている。特にUDブラウザは、ベッドサイド授業にとって教育効果は大きいといえる。

(平賀委員) ベッドサイド学習を受ける児童生徒にとって、筆圧が弱くても使えるので、とてもよいと思う。児童生徒によっては、タブレットよりも紙の方が集中して学習できると思うが、その点はどう考えているか。

(小川教諭) タブレットを使った学習はあくまでも方法の一つで、その児童生徒に応じたアプローチをして学習意欲を高めていきたいと思っている。紙を使用した方が教育効果が大きい場合は、紙を使用する。

(平賀委員) 教員がデジタル教科書に抵抗がある時はどうしているか。

(小川教諭) 必要があればデジタル教科書を学びたいという教員の声をよく聞くので、誰もが使えるようにマニュアル化して抵抗感を少なくしていきたい。またデジタル教科書を少しずつ使用することで教員の抵抗感もなくなっていくことと思う。

(大門校長) 昨年度より、ICTに関してはレベル別に研修を実施している。今後も研修を通して、教員のICT教育力を向上し、デジタル教科書の抵抗感を少なくしていきたい。

・本校HP上での作品展（大林教諭）

自分の作品をいろいろな人に見てもらい感想をフィードバックすることによって、児童生徒の自己肯定感を高めることが目的である。また他分教室の児童生徒にとっても鑑賞する機会が増え、よい刺激や交流になることも目的である。HP上での掲載であることから、個人情報に十分気をつけながら掲載手順も明確にしている。HP上での作品掲載が軌道に乗っていけば、作品以外のコンテンツ（動画、音声等）も増やしていきたい。

(亀田委員) 社会性のあるインパクトのある取り組みであり、素晴らしいと思う。コロナ禍で孤立化が進んでいるので、こういった取り組みは更に進めてほしいと思う。

(平賀委員) 児童生徒や保護者にとって、教員から「HPに出してみたら」という声があると嬉しいと思う。自己肯定感も高まり、今後の学習への励みにもなる。

(前田委員) 掲載手順も明確にしていることから、単発でなく継続性を感じた。こういった視覚化された取り組みは、児童生徒の興味関心と学習意欲を高めるのでとてもよい取り組みである。

(平賀委員) 病弱教育は社会的に浸透していない部分があるので、こういった取り組みはとても大切であると思う。児童生徒が自身で投稿できるようにした理由は何か教えてほしい。

(大林教諭) 教員が見守りながら、児童生徒が自身で投稿することによって、ICT操作の達成感も持ってほしいことがねらいである。児童生徒が投稿したいという気持ちと教員から推薦され自己肯定感を高めることを今後も大切にしていきたい。

東京都、千葉県の病弱支援学校視察について（岡田首席）

【学校の様子を写真や動画で紹介】

千葉県立四街道支援学校

- ・病弱支援学校で高等部を設置している。
- ・地域の児童生徒が通いスクールバスがある。
- ・体育館を床暖房にするなどして、児童生徒が教育を受けやすいように施設の面でも様々配慮されている。
- ・ICT教育では、病院のネットワークを利用している。

東京都立光明学園

- ・肢体不自由支援学校である。
- ・在宅訪問の児童生徒は27人、通学生は163人である。寄宿舎もある。
- ・高等部も設置し、学校に誇りをもてるように制服だけでなく学校のワッペンも着用している。
- ・Web授業も充実している。

5 連絡報告事項

（1）令和4年度羽曳野支援学校の活動について

① 四天王寺大学との交流について「本校」（井川教頭）

四天王寺大学の学生と音楽交流をする予定である。トーンチャイムを使って、つながりを感じながらの演奏に児童生徒にとって楽しい時間になることと思う。また今後、支援教育に携わる学生にとっても貴重な機会であると考えている。

② うさぎプロジェクト「阪南分教室」（井川教頭）

大阪府立農芸高等学校の生徒が主体となって、入院中の児童生徒がうさぎと触れ合うことによって心理的な安定を得られることを目的としている。うさぎと触れ合う中で、児童生徒の顔が何とも言えない温かい表情になり、命の大切さを肌で実感するよい機会になった。

③ 医療関係者へのインタビュー体験「母子分教室」（森本教頭）

キャリア教育の一つとしての取り組みである。児童生徒はインタビューの前に質問を考えたり、インタビューの後には、わかりやすく伝えるために発表の内容や方法について考えたりした。働く人の業務内容だけでなく、働く人の気持ちを知るよい機会になった。

(2) その他

第3回学校協議会日程について

次回は2月中旬を予定している。

6 閉会のあいさつ（大門校長）

本日は貴重なご意見等をいただきましてありがとうございました。そのご意見等をもとにして、今後の教育にいかしていきたいと思います。コロナ禍であるからこそ病弱教育の大切さを実感していることから、今後も児童生徒が安心して学ぶことができる環境を教職員と力を合わせて作っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。